

The 45th CCE International Exchange Project
「ニューヨーク州立大学学生と日本の子ども達との文化交流プログラム」
Cultural Exchange by the college of Brockport, State University
of New York students and the Japanese students



事業終了報告書

主催 : 地球の子ども通信 (CCE)
Organizer : Children's Communication on Earth

後援 :
Supporters

宮城県
仙台市
仙台市教育委員会
(公財)宮城県国際化協会

 NHK 仙台

 河北新報社
朝日新聞仙台総局
 TBC 東北放送

Miyagi Prefecture
Sendai City
Sendai City Education Committee
Miyagi International Association
Japan Broadcasting Corporation Sendai Station
Kahoku Press
Asahi Press Sendai Branch Office
Tohoku Broadcasting Corporation
Sendai International Relations Association

助成 :
Financial supporters

(公財) 仙台国際交流協会

第45回地球の子ども通信国際交流事業
ニューヨーク州立大学学生と日本の子ども達との
文化交流プログラム

地球の子ども通信(CCE)

Children's Communication on Earth

第45回地球の子ども通信国際交流事業
「ニューヨーク州立大学学生と日本の子ども達との文化交流プログラム」

成 果

ニューヨーク州立大学ブロックポート校学生との2度目の CCE 交流事業は、“日本の芸術と文化プログラム”を目的に行われた。

来日した一行は、京都、広島、東京で日本の歴史、文化体験を経て、仙台でのホームステイプログラムと南三陸町被災地訪問を計画実施した。

CCE とブロックポート校学生との文化交流会は、日本の伝統文化を中心に琴、尺八、折紙ワークショップを行った。学生達は大変興味深く参加していた。日本の子ども達と一緒に踊った“よさこいソーラン”は、言語の違いを越えて心が通じ合った時間となった。又、引率者であるケビン教授は、みんなで楽しめる創作ダンスワークショップを提案し行った。会場は大変盛り上がった。

南三陸町被災地体験では、津波が起こる以前の町の風景や人々の暮らしが理解しにくいため、アメリカの学生達は被災の大きさを実感することは難しかったようだ。が、資料館でアメリカから受けた支援物資を見たり、2009年と2011年の航空写真を比較することで、当時の被災の様子を学んだ。

マスメディアを通じたイメージでアメリカを見ていることが多い私達は、アメリカの文化、暮らしについて知らないことに気づかされた。アメリカの学生達もまた、日本についての知識が薄いことに驚かされた。このプログラムの中で唯一の仙台ホームステイ体験は、アメリカの学生達にとって日常の生活文化を通し、人と向き合いながら日本を学んだ貴重なものとなった。

英語圏の国との交流事業ということで、英語にこだわりを持っていたホストファミリーとは対比的にCCEの中、高校生達は、“どこの国の人も人として同じ”という視点で、州立大学学生との交流を楽しんでいた。これまでの国際交流事業を通し、アジアの国々との交流体験によって培われた力と言える。

一行の中に、国連で働いている75歳の女性が参加していた。彼女はCCEのボランティア活動を高く評価し、アジアだけでなくアメリカとの交流も計ったらどうかと提案していた。

今回の芸術文化交流事業は、国、言語を越えて、遠い国の人々と異文化相互理解の機会を創る大きな役割を果たした。事業に関わった子ども達、ホストファミリー、そしてアメリカの学生達の双方に継続的な交流が図れることが期待できる。

地球の子ども通信 (CCE)
会 長 芳 賀 節 子

実 施 要 項

1. 主旨

地球の子ども通信は、この地球上にたくさんの友達を作り枠取りのない子ども達の目線で捉えた国際交流を深め、より良い子ども達の環境を作ることを目的とし1992年に発足。1993年より主に小学生、中学生を対象としアジアの国々との招へい、派遣ホームステイ国際交流事業を継続的に行ってきた。又、昨年7月には、アメリカニューヨーク州立大学学生と日本の子ども達との文化交流事業を行った。これらの事業を通して、子ども達は異文化を学び世界観を拓げてきた。

この度、ニューヨーク州立大学ブロックポート校学生との継続交流として「ニューヨーク州立大学学生と日本の子ども達との文化交流プログラム」の文化交流事業を計画するに至った。このプログラムは、ニューヨーク州立大学ブロックポート校「日本の芸術と文化プログラム」(東京、京都、広島、仙台)のため来仙する学生と引率者を対象として行う。仙台でのプログラムについては、地球の子ども通信が企画。ホームステイを通じた日本生活文化体験と子ども達との交流、又、被災地南三陸町を訪問し東日本大震災被災状況について体験的に学ぶことを目的として実施する。

2. 目的

次代を担う世界中の子ども達に国際親善の輪を拓げ、子どもレベルでの友情交流と文化相互理解を深める。

3. 方法

ニューヨーク州立大学ブロックポート校学生を対象とし、宮城県仙台市でのホームステイを通して日本の生活体験をする。又、文化交流会を通し日本の子ども達との交流を図る。

4. 内容

①ホームステイ対象

アメリカ	ニューヨーク州立大学ブロックポート校学生	7名
	引率者	2名

②時期日程

平成26年7月23日(水)～7月28日(月)(6日間)

③日程内容

別紙「仙台ホームステイ日程」参照

5. 経費

仙台ホームステイ期間中の滞在費、文化交流会費など、地球の子ども通信(CCE)が負担する。尚、南三陸町訪問費は参加者が負担する。

6. 組織

主催：地球の子ども通信(Children's Communication on Earth)

後援：宮城県 仙台市 仙台市教育委員会 (公財)宮城県国際化協会

NHK仙台放送局 河北新報社 朝日新聞仙台総局 TBC東北放送

補助：(公財)仙台国際交流協会

「ニューヨーク州立大学学生と日本の子ども達との文化交流プログラム」

ウエルカムパーティ歓迎の挨拶より

皆様こんばんは。

Mr. Kevin Warner、Mrs. Margaret Corbin、学生の皆さん、ようこそ仙台にいらっしゃいました。

今年もまたニューヨーク州立大学ブロックポート校の皆さんとの交流事業を開催できますことを大変うれしく思っています。

この地球上に約 70 億の人々が暮らしていると言われますが、こうして皆さんと出会い、交流できますことは、奇跡のようなことだと思います。

皆様の仙台での主な目的は、被災地訪問とホームステイプログラムと聞いております。私達は、3.11 大震災体験を通して命の尊さを改めて学びました。そして、多くの国々から沢山の支援をけ、国を越えて人と人とが繋がりの中で共に生きていることを、また深く学びました。

人々の生きる場所が異なれば、吹く風も、照りつける太陽の光も違うはずですが。私達は人々と出会い、その国の文化を知り、良い友人になっていくことが、平和な世界を作ることにつながると考えています。どうぞ様々に学び、発見し、相互理解の芽を育てていって下さい。この地球上に暮らす私達の未来のために。

最後になりましたが、昨年に引き続き C C E 交流事業のニューヨーク州立大学のコーディネーターを下さっている橋本有子さんに、心から感謝申し上げます。

地球の子ども通信 (CCE)
会長 芳賀 節子



CCE 芳賀会長にケビン教授より記念品贈呈

Good Afternoon everyone.

On behalf of CCE, I would like to extend our warm welcome to Mr Kelvin Warner, Mrs Margaret Cobin, and fellow guests. Welcome to Sendai.

We are very pleased to host the exchange program for the second time with the State University of New York College at Brockport this year.

It is estimated that there are seven billions people or so living on this very planet we called Earth, and this is no more than a miracle that we have come to know and interact with one another here.

I have learned that the objectives of your visit are understanding the after-math of the recent disaster and enjoying your homestay program in Sendai. Through the painful experiences gained from the 3.11 Earthquake Disaster, we people in Sendai have once again recognized the nobleness of our lives. In addition, by accepting aids from various countries, we have also come to appreciate the truth of people co-existing together through different connections beyond the geographical boundaries.

As long as two people live on two separate parts on the earth, the breeze that one catches, and the sunshine that one embraces are bound to be different. However, we strongly believe that by interacting with people of different origins, understanding the cultural differences and cultivating friendships among us, we can contribute ourselves to the creation of a world filled with peace and harmony.

For the future of all of us living on this planet earth, I strongly encourage each and everyone of you to embrace this trip with an open mind to learn, to discover and to nurture the shoots of mutual understanding.

Last but not least, I would like to thank Ms Hashimoto Yuko who has kindly availed herself once again as our co-ordinator for the current exchange program with The State University of New York. Thank you.

Setsuko Haga (Ms)
President, CCE



The College at
BROCKPORT
STATE UNIVERSITY OF NEW YORK

Interdisciplinary Arts for Children Program

Mrs. Setsuko Haga
Children's Communication on the Earth
1-24-5 Minaminakayama
Izumi, Sendai
Myagi, 981-3213
Japan

August 26, 2014

Dear Mrs. Haga, CCE Board, and CCE Volunteers,

On behalf of The College at Brockport and our "Arts and Culture of Japan" study-abroad program, *thank you* for your role in organizing home-stays and hosting our students in Sendai this past August.

Again this year, the home stays that were organized through Children's Communication on the Earth (CCE) were among the most transformative events on the program itinerary for our college students. The opportunity to stay in a home with CCE families reminds all of us how much we are similar as people, while highlighting the various ways in which our daily lives are shaped by the worlds we inhabit. Our students' understanding of the people, language and culture of Japan is significantly deepened by our home stays in Sendai. It is a great compliment to you, your Board and the families who hosted that all of our students highlighted their experience with you as among the most memorable part of their 24-day trip; I have enclosed just a few of their comments here for you.

It is also important for me to acknowledge your willingness to work with us for the second consecutive year, even though CCE's mission is primarily focused on work with upper-elementary and middle-school age students. I remain very interested in investigating ways in which we might one day reciprocate by hosting children from Japan here in Western New York. While it will take some time to lay that groundwork, I hope to continue to stay in touch with you in the years ahead.

Thank you again to you, Mrs. Kobayashi, and the entire group of CCE volunteers for your kindness, incredible generosity and time. We will not forget any of you as we seek to emulate your kindness in our interactions with the many individuals from other cultures who cross our paths here in the U.S.

Sincerely,

Kevin S. Warner
Co-facilitator, "The Arts and Culture of Japan"
Chair, Department of Dance
Cooperating Faculty, Interdisciplinary Arts for Children Program

仙台ホームステイプログラム

ウエルカムパーティと文化交流会

イズミティ21・展示室にて「ウエルカムパーティと文化交流会」を行った。日本の子ども達、ホストファミリー、CCE会員など約80名が参加した。歓迎セレモニーでは芳賀会長の挨拶後、ニューヨーク州立大学ブロッポート校のケビン教授が「昨年に続き今年もまた、ホームステイを引き受けて頂き感謝申し上げます。」と挨拶した。

文化交流会での琴・尺八演奏は素晴らしく、古典的な「六段の調」や夏の季節を感じる「ひぐらし」など、アメリカの学生だけではなく日本人もまた、その音色に感動していた。体験ワークショップでは、琴の弾き方を教えてもらいその音色を楽しんでいた。ケビン先生によるムーブメントワークショップでは、全員で体を動かしてダンスを楽しんだ。最後は全員で「よさこいソーラン」を踊り盛り上がった。有意義な文化交流会となった。



素晴らしかった琴、尺八演奏
&
琴ワークショップ

誇るべき日本の伝統音楽を紹介

[Program]	
I. オープニング	日本文化紹介 琴演奏
Opening	Introduction of Japanese culture (Koto playing)
曲目/	六段の調 ひぐらし 尺八独奏 花は咲く
演奏 / 琴:	芳賀喜恵邦 鈴木喜千恵 栗原喜右静
Player/ Koto:	Kieho Haga Kichie Suzuki Kiushizu Kurihara
尺八:	大友憧山 近藤聡月
Syakuhaichi	Dozan Otomo Sogetsu Kondo
II. ウェルカムセレモニー	
Welcome Ceremony	
• 会長あいさつ	
Greetings of President of CCE	
地球の子ども通信会長	芳賀節子
President of CCE	Mrs. Setsuko Haga
• CCE子ども代表歓迎のあいさつ	
Welcome speech by CCE student	
東北高等学校1年	鈴木風子
Tohoku Haigh School 1	Miss Fuko Suzuki
• ニューヨーク州立大学ブロッポート校 代表者のあいさつ	
Greetings of representatives of the college at Brockport,	
State University of New York	
Professor	Mr. Kevin S Warner
III. ディナーパーティ	
Dinner Party	
乾杯	
Toast	
IV. 琴・尺八ワークショップ	
Koto workshop	
V. ニューヨーク州立大学ブロッポート校学生による自己紹介	
Introduction of the college at Brockport, State University of New York	
ムーブメントワークショップ	
Movement workshop	
VI. 日本の子ども達による文化紹介「よさこいソーラン」「すずめ踊り」	
Introduction of culture by Japanese students	
	「Yosakoi soran」「Suzume odori」



熱心に琴を弾いていたアメリカの学生



アメリカの学生による自己紹介と研究テーマの紹介



パーティ参加者全員で踊った「よさこいソーラン」

おりがみワークショップ



オリガミ・タロー氏と折り方を通訳する橋本有子さん

創作折紙師オリガミ・タロー氏を講師に迎え、おりがみワークショップを行った。テーマは“サメ”。二枚の折紙を使っての芸術作品作りに、州立大学学生は熱心に取り組んでいた。又、デザインされた紙を使って「奴さん」も作った。州立大学学生だけではなく、日本の子ども達もホストファミリーも、みんなが楽しめた文化体験となった。



日本の折紙文化をホストファミリーと一緒に楽しんだ



楽しかった“サメ”作り

被災地南三陸町訪問

昨年に続き、被災地南三陸町を訪問。津波の被害に遭った海岸沿いや資料館を見学、津波の被害状況や復興の現状を学んだ。夜は廃校となった小学校を改築した宿泊施設“さんさん館”に泊まる。二日目は、CCEを支援して下さっている阿部さんの畑でジャガイモ掘りを体験。その後、阿部さんのお宅で採れたジャガイモを料理して試食する。35度の猛暑の中収穫したジャガイモの味は格別だったようだ。又、震災後初めてとなった南三陸町夏まつりにも参加することが出来た。被災地の皆さんに温かいおもてなしを受けた二日間となった。



阿部さんの指導でジャガイモ掘り体験



収穫したジャガイモで
フライドポテト作り



さんさん館での夕食風景
おいしい海の幸に大満足

フェアウエルパーティ



挨拶する芳賀会長



感謝を述べるケビン先生



幼児による忍者ダンス「しのびのごくい」



サクソス伴奏で「星に願いを」を合唱
指揮はホストファミリーの3才の男の子



日本語で歌った「アナと雪の女王」



ケビン先生による二人羽織り



文化や言葉の違いを越えて一緒に踊った「よさこいソーラン」



全員で記念撮影

仙台ホームステイプログラム感想

The 45th CCE International Exchange Project
Cultural Exchange by the college of Brockport, State University
of New York students and the Japanese students 2014
July.23, 2014 ~ July.28, 2014

Name: KEVIN WARNER

Remarks on the home -stay program:

First of all, a big THANK YOU to Mrs. Haga, CCE members and our host families for all of their kindness and generosity. Again this year, I was overwhelmed by the generosity of all involved, and am grateful for the time and resources provided by all involved.

- The koto artists were a wonderful introduction to our welcome party! It gave our students a bit of "Japan" through the arts as our welcome to Sendai. I am impressed by shjukachi players as they demonstrated their mastery of their art. It was a true gift to watch all of them.
- Again this year, Mrs. Junko Hashimoto was a perfect host and made me feel so very welcome in her home. Now that I have known her for several years as Yako's mother, it feels very "easy" to stay with her, and I enjoy just talking and relaxing with her. I cannot say enough about her kindness.
- Based on my observations, I am glad that our students were able to spend a bit more time with their host families this year. I think that this facilitated important time to "bond" and reconnect with them. We can not "force" connections between people, but I could clearly see that some of the students in particular had important experiences with the families.
- For me personally, our lovely dinner at the Royal Park Hotel was a highlight of my time in Sendai. I am so glad that Mrs. Haga, Mrs. Kobayashi and Mrs. Inamura

and Mrs. Suzuki initiated this.

*Thank you for a memorable and very special
experience again this year.*

先ず始めに、芳賀会長、CCEメンバーの皆様、そしてホストファミリーの皆様、全てのご好意と寛大さに対し、心よりお礼申し上げます。今年も又、参加させて頂いた多くの行事に圧倒されました。この計画に関わられた皆様の費やされた時間と努力に対し、心より感謝申し上げます。

ウェルカムパーティでの琴演奏は、素晴らしい紹介でした。来仙歓迎として芸術を通し、学生達に日本の伝統に少し触れる機会を与えて頂きました。私は、その道の達人芸を披露して下さった尺八奏者に感動しました。鑑賞出来たことは、真の贈り物でした。

今年も又、橋本潤子さんは申し分のないホストでした。大変歓迎して頂きました。彼女は有子さんの母親として数年間知人でしたので、お宅でのホームステイは気楽で、彼女とお話ししたりリラックスして楽しみました。このご好意に対し、十分な言葉で表現できません。

私の見る限りでは、今年学生達がホストファミリーと少しの間ですが一緒に過ごすことが出来て嬉しく思っています。貴重な時間と「絆」を助成し、深めることが出来たと思います。人々に強要できることではありませんが、学生達がホストファミリーと貴重な体験をしたことを明白に実感することが出来ました。

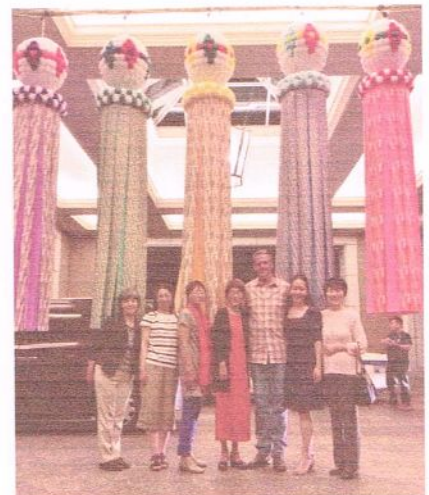
私自身、個人的にロイヤルパークホテルでのディナーが仙台滞在中で最も印象に残っています。芳賀会長、小林さん、稲村さん、そして鈴木さんと共に過ごせて、大変嬉しく思っております。

今年も、思い出に残る特別な体験をさせて頂き、ありがとうございました。

Mr. Kevin S Warner

Chair and Associate Professor, Department of Dance

Cooperating Faculty, Interdisciplinary Arts for Children Program
State University of New York College at Brockport





Founded 1945

UNITED NATIONS ASSOCIATION OF ROCHESTER

A Chapter of UNA-USA

PO Box 92085
Rochester, NY 14692

www.unar.org
e-mail: unar@unar.org

Mrs. Setsuko Haga
Nra55237@nifty.com

Dear Mrs. Haga,

I have been reviewing my many photos of all the activities and wonderful times we shared with CCE and the many members. Thank you and all their active members and volunteers who made our stay in Sendai so memorable. I believe this event met all I hoped for with the Arts and Culture Tour. I also is what we work for with the United Nations programs.

The family I stayed with the Konno family was so generous and kind to me it is hard to believe we were strangers. Keiko is a wonderful leader for her family but also for the CCE. She seemed to be the first person at each event setting up and cleaning up with her children always ready and willing to help with each event.

The Konnos's also gave me a wonderful accommodation so I was completely pampered! The children were all great and especially Koshi, their oldest son, who was able to help with English/Japanese translation.

Thank you personally for making plans for my last day in Sendai. The trip to the memorial Shrine was especially interesting. We were able to spend a little more time there and enjoy the work that had been done on the restoration of the building. When I found out that your husbands' business had done this work it became even more of a pleasure to appreciate the artisanship.

The luncheon was a perfect ending to the morning. Such a beautiful restaurant, the food and service were excellent. You also gave me a gift which is another work of art.

Thanks you for all you and CCE have done for the University Tour and thank you personally for all you give to the CCE program and gave to me.

As we discussed at lunch it may be time soon for you to make your first non-Asian trip! When you do make that trip, please plan to stay with us in Rochester, New York.

Thank you and all your committee and volunteers,

In Peace, Margaret Corbin

Mission Statement

The United Nations Association of Rochester is dedicated to supporting, in the greater Rochester area, the strengthening of the United Nations System and the role of the United States in that system, and to promoting multilateral efforts to advance the goals of the United Nations Charter, such as human rights and global peace.

芳賀様へ

私は何度も繰り返して CCE 活動に参加し素晴らしい時を共に作った沢山の写真を見ていました。忘れられない仙台の旅を会員の方、並びに多くのボランティアの方々、本当に有難うございました。特に芸術と文化のツアーを経て私は個人の期待を全て満たしたとも言えます。これは我々ユナイテッドネーションの持つプログラムの目的でもあります。

私を迎え入れて下さった今野ファミリーに無私で且つ親切にして頂き、他人同士とはとても信じ難いぐらいでした。馨子さんはご家族の素晴らしいリーダーとしてだけではなく、CCE にとっても欠かせない方です。各イベントの準備や片付けの時に、いつも彼女とお子さん達の姿が見られ、何時でも手を貸そうとしていました。

私自身も今野ファミリーに甘えて、素敵な宿泊ができました。お子様達はとても親切で、特に長男の耕嗣さんに言葉の翻訳を助けてもらいました。

最後の滞在日に特別な計画をして下さって、感謝致します。瑞宝殿への見学は特に面白かったのです。より長く時間をそこで過ごし、復元工事の跡をゆっくり見学でき、幸いでした。芳賀様のご主人の事務所がこの復元工事の担当だと聞きましたら、益々興味が深まり、ご丁寧な技巧を味あわせて頂きました。

その日の昼食もまた完璧な朝の句点となりました。素敵なレストランに、美味しい食事、丁寧なサービスに、また芸術品とも言えるプレゼントまで頂き有難うございました。

昼食時に話し合った様に、芳賀様にとってこの時がアジア以外の国々を回るよい機会かも知れません。そんな旅のご計画を立てましたら、是非ニューヨークのロチェスターに据える我が家にいらっしゃいませ。

芳賀様を始め、CCE 会員の皆様、並びに多くのボランティアの方々、有難うございました。

安らぎを Margaret Corbin



芳賀会長とマーガレットさん

ホームステイプログラムの感想

“My home stay experience has been a wonderful and educational opportunity that will be with me forever. It amazed me how generous and welcoming everyone was; that is something that will take with me back home.”

- *Angelica Gomez*
State University of New York College at Brockport
Brockport, NY (USA)



“Without the CCE program and the wonderful dedication of all involved in making this program work, my visit to Japan would be missing a huge, essential part of the Japanese culture: the culture of the home. This experience was priceless beyond all description and everything felt perfect. I will miss my host family dearly but I am incredibly glad I was privileged to have this experience.”

- *Meagan Gaylord, undergraduate student*
State University of New York College at Brockport
Brockport, NY (USA)



“Before CCE, I never did a home stay; I never imagined I would travel to another country and gain a second family. With this program, this is exactly what I did! I’m very thankful to CCE for having this program and giving me the opportunity to meet everyone and really experience Japan with the Sonoda family.”

- *Nelly Gomez, undergraduate student*
State University of New York at Plattsburgh
Plattsburgh, NY (USA)



“Through this amazing experience, I gained not only new knowledge of the Japanese culture and home life, but I also gained something even more special: A family.”

- *Alexis Clark, undergraduate student*
State University of New York College at Brockport
Brockport, NY (USA)



“The CCE program provided me with a unique opportunity to interact with and learn about Japanese culture within an individual family. My host family was *beyond* kind and generous, and made me feel at home. You can read about a nation and its people in books or online, but to actually live with and communicate in an intimate way is truly life changing. It has given me new perspectives and shown me that family is family, no matter where you come from. Without CCE, I would not have had this wonderful opportunity and I’d like to thank them for the experience, as well as for the many friendships that I have developed while staying in Sendai.”

-Elise Cade, undergraduate student
State University of New York College at Brockport
Brockport, NY (USA)



“I fell in love with my family immediately and their generosity was obviously heartfelt. They wanted to teach me about the culture and themselves, and I certainly learned. They showed me the Japan you do not see everywhere else; I was just a part of the family and they introduced me to the best their town has to offer.”

“Thanks to Haga-san and Kobayashi-san personally for ensuring I arrived at a scheduled event by taking their own time and treating me to lunch. Also a huge arrigato for helping everything run so well and so smoothly. This experience will truly stay with me.”

- Elon Clarke, undergraduate student
State University of New York College at Brockport
Brockport, NY (USA)



“I personally had many wonderful experiences with CCE. Highlights included:

- My host family, the Konnos – Four children always helping, working to set up + take down equipment, and make everyone comfortable;
- Children participating in song, dance, translations and more;
- Keiko, my host mother, hard at work to make all programs complete, fun, and educational;
- Mrs. Haga, the president, who attended every activity and participated herself;
- Mrs. Haga, who is detail oriented and makes sure nothing is forgotten or overlooked. She recognized that I worked with another international organization and made opportunities for me to talk w/other committee members, and took me to lunch to further our international connections.

Each event -origami, welcome and ending events were led by talented community professionals. Outstanding!”

-Margaret Corbin
United Nations Association of Rochester, NY (USA)



ホストファミリー感想　ーホストファミリー報告会よりー

- 日本の子供も達は、学校生活のみならず受身の姿勢が多い中、橋本有子さんがこのプログラムを立ち上げ、責任を持って作り上げる力はすごいと感じた。特に、学生を叱っている場面を見て思った。このような積極的な姿勢から、日本人は学ばなければならないと思った。
- 何でもいいよではなく、“No” の選択肢がない自分に気づかされた。
- 英語圏の人の受け入れは初めてだった。Alexis は英語は国際共通語の認識で話しかけてきたことから、英語の大切さを痛感した。 (芦立美幸)
- 仙台ホームステイ前に、東京、京都、広島で様々な日本文化を体験してきたようなので、気が楽だった。
- 中2の息子は、自分の英語が通じてうれしかったようだ。又、英語をステイした Meagan に教えてもらったことで刺激を受け、英語に対する意識づけになった。 (阿部智子)



折紙を楽しむ安藤ファミリー



芦立ファミリーのパフォーマンス

- 受け入れたエリサは、女性のファッションなどに興味があり、日本の文化を知ることにはあまり意欲的ではなかった。又、東京で知り合った学生と連絡をとることに忙しく、私達とコミュニケーションをあまりとろうとしなかったことは残念だった。
- 自分の英語力を知る機会となった。又、日本の文化を外国の人々に伝えたいという、新しい課題ができた。
- 3才の息子は、ホストファミリーすることをとても喜んでいて。 (安藤綾華)
- 家族でたのしく過ごそうと受け入れた。Elon は、海苔巻作りを楽しんだり、日本語を覚えようとしていた。又、我が家の子供達に、ABCなど英語の発音を教えてくれた。
- 我が家の子供達も、2年前にホストファミリーを引き受けた時より、自分からコミュニケーションをとっていた。成長できる場があるのは良いと感じた。 (境規江)



マーガレットさんと一緒に

- これまでのホストファミリーは同年代か年下が多かったが、今回は祖母と同じ位の年齢のマーガレットさんを迎えた。マーガレットさんが積極的に話しかけてくれ、たくさん会話ができた。学校のこと、親の職業についてなど色々聞かれた。
- 畳の部屋に感動していた。
- ステイ期間が短かったけれど、今まで以上に濃い密度で交流することが出来た。これからも手紙などで交流を続けていきたいと思う。アメリカにも行ってみたい。（今野耕嗣 高2）
- 初めてのホストファミリーだった。我家の子ども達と受け入れた Nelly と、言葉の壁を越えて楽しい時間を過ごした。
- フェアウエルパーティのパフォーマンスは、当初忙しい中大変だと思ったが、一緒に考え作り物をする事ができて、とてもよかった。
- 娘が見送りの際大泣きし、数日間 Nelly ちゃんに会いたい、会いたいと言い、私も悲しい気持ちになった。7才の娘には初めての別れとなったが、それもまた、出会いと別れの経験となり良かった。次もまた、ホストファミリーをしたいと家族と話している。（園田芙実子）
- Angelica は何でもできる子だったが、のんびりしていて時間のチェックが必要だった。
- 自分は英語ができないが、ホストファミリーを引き受けた。アメリカ留学の経験のある息子が、一日だけ帰郷し通訳してくれた。（阿部眞弓）
- 今回は子どもではなく 75 才の女性でしたので、これまでとは違った気持ちで緊張しての受け入れだった。
- 彼女はベジタリアンでしたので、出したものから食べられるものを食べてもらいました。
- 英語を通してのコミュニケーションは、言っていることはだいたい理解できても、自分の言いたいことを英語で表現することができませんでした。それでも何とか通じ合えるのがホームステイの楽しさだと思います。ただとても素敵なマーガレットさんと、もっとお話が出来るとよかったなと思います。（今野馨子）
- 娘の企画から始まったこのプログラムを、CCE で引き受けて頂きありがたく思っています。仙台プログラム以外はホームステイではないので、日本の家庭を知ることが出来、アメリカの学生達にとって貴重な体験になったと思う。（橋本潤子）



ニューヨーク州立大学学生から届いた手紙



Dear Mrs. Haga,

I would just like to say thank you for all your hard work in giving me a really nice, really generous and kind host family. My trip to Japan would have been incomplete had it not been for this experience, and it was all thanks to you that this could happen. I appreciate your dedication to a program that I believe is so important, especially to students like myself who are so interested in experiencing another culture. In just a short time, I was able to gain a whole new understanding for Japanese living and, in the time that I've been back home, have missed my host family. I learned so much and it's only because you were involved in this program, so thank you again. I will carry this experience with me for a long time.

Meagan Gaylord

Mrs. Haga,

I would like to say thank you for helping to organize our host family arrangements in Sendai through the CCE. You have helped provide an experience unlike any other and provided the opportunity to develop new and hopefully life long friendships with the people in Sendai. Again, thank you so much for everything. It was a pleasure to meet you and the folks from CCE.

Sincerely,

Elise Cade
エリス・ケイド

IT WAS MUCH APPRECIATED.

Dear Haga-san,

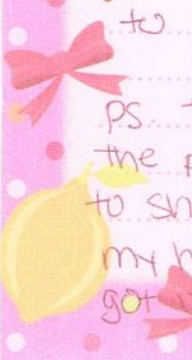
I am so grateful that you are head of the CCE as president, because the experience you provided for all of us was fantastic. Thank you for the lovely gift, I will cherish it always, especially March 3rd. And most of all, thank you for allowing me to be fully immersed in the Japanese culture and for

allowing me to gain a Japanese family. Thank you so much for all of your hard work, it was not only appreciated but cherished.

Thank you very much.

Best wishes and many thanks,

Alexis Clark



Dear Mrs. Setsuko Haga,
My name is Nelly Gomez and I was a part of the home stays this summer in Sendai.

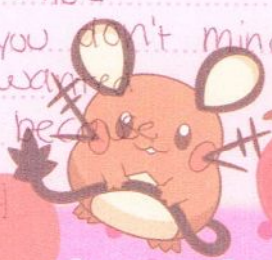
I was lucky enough to get to stay with the Sonoda Family. I just wanted to say I had a great time with the Program.

I never did a homestay before CCE and it showed me how important it is to open your home and heart.

I wish the best for CCE and Continuance for years to come.

-Nelly Gomez

ps. I hope you don't mind the paper. I wanted to show it off because my host family got it for me!



牛舎の前で
(南三陸町)



牛舎の前で
(南三陸町 阿部さん宅)

pleasant much memories



Dear Mrs. Haga,
I hope you don't mind my Cutesy Stationery. I'm just writing to say thank you for the great time in Sendai. I really enjoyed my time with my host family and meeting every body. It will be an experience I will never forget. I hope CCE continues to host students in Sendai because really allows ^{people} to experience a new culture and learn about themselves. I now have a new family thanks to the program.
Thank you,

Angelica Gomez



2014 年度 CCE とニューヨーク州立大学学生との国際交流事業について

“日本の芸術と文化”コーディネーター 橋本有子

今年で2回目となったCCEとニューヨーク州立大学学生との交流事業は、昨年とほぼ同じ旅程で、南三陸町へのフィールドトリップを含め5泊6日の仙台(宮城)滞在となった。仙台へ移動したときはプログラムも後半に差し掛かり、学生たちにも旅の疲れが溜まり始めていた。しかし、大都会から少し離れた仙台で日本の家族に迎えられ日本の家庭生活を体験できたことで、このプログラムが重きを置いている“人との交流”を一番濃く経験できる事業になったと思う。

ホストファミリーとの生活で学生達は、常に通訳に入っていた私から離れることで言葉の壁を目の当たりにしたようだった。日常生活の中で身振り手振り(ボディラングエッジ)がどれだけ助けになるか、しかしまた、言葉が通じないということが細かなニュアンスや複雑なことを伝えるのにどれだけ大きな壁になるかを実感したようだ。言葉が通じないもどかしさを感じることができたのは、それだけコミュニケーションが求められる環境に置かれていたからだろう。

学生の中にはアメリカ人代表として印象を残すことを重く受け止め、大変気を使い気疲れした学生もいた。また、手伝いができない(何かしたいとオファーするがただ座っていて、と言われる)環境を大変もどかしく感じ、好意を素直に受け取り感謝する、ということが難しかった学生もいた。いずれにせよ、相手のことを思いやりお互いに心地良いコミュニケーションをとる、ということがそう簡単でないことを学ぶことが出来たのではないかと思う。

又、何人かの学生はホストファミリーと一緒に料理をしたと、とても楽しそうにその時の様子を話してくれた。ホストママから新しいレシピを学びながら、また自分の知っている料理法を紹介しながら、言葉と言葉の直接的な会話でなく、料理という媒体を通してのコミュニケーションは、言語のコミュニケーションがスムーズには難しいお互いにとって、一歩近づくことのできた時間になったのだと思う。

CCE 企画第一弾の折り紙ワークショップは大変良かったと思う。言葉があまり通じずとも、身振り手振りの視覚が頼りになる折り紙では、時折“あ〜!”という納得の声が聞こえてきた。また、子どもから大人まで年齢問わず、学生と一緒に無理なく交流できる場になっていたと思う。

去年はウェルカムディナーだったが、今年はウェルカムパーティーを盛大にして頂いた。学生は2名多いだけだが、ホストファミリーの子ども達やゲストも多く大変賑やかな会だった。

ケビンのムーブメントワークショップでは緊張感のあった会場の雰囲気が一気に和み、“きゃーきゃー”と声を上げる子ども達が印象的であった。動きという世界共通の非言語コミュニケーションが最大に生かされた場であったと感じた。

また、毎回美味しい手料理を用意してくださるCCEメンバーやホストファミリーの皆さんに本当に感謝したい。外食続きの私達にとって、日本の手作り料理をいただける頂ける場は大変嬉しいものだった。

南三陸町被災地訪問では、津波資料館、津波跡を見て回った。私は津波前の町並みを知らないが、穏やかな海が形相を変えて人々や家々を飲み込んでいったことは信じがたいが事実であり、自然災害の恐ろしさと自然と共に生きる限り私たちが考えていかねばならないことがあることを知らされた。学生達も資料館で米国からの支援物資等を見たときには少なからずアメリカと南三陸町のつながりを感じ、2009年と2011年の津波後を映した航空写真を見て、テレビで見た“Tsunami”をもっと身近なものとして捉えることができたようだった。

宿泊先の「さんさん館」で籠御膳の夕飯をいただいた。もずくや海草サラダなど最初は珍しがっていたが、今年の学生の大半が一度は試してみるという心構えでいた為、食わずに嫌がる学生は少なかった。翌日は炎天下でジャガイモ堀りをして、阿部さんの台所をお借りしてフライドポテトを作った。調理をしていない学生達もキッチンで我が家に居る様子にくつろいでいる姿に、阿部さんも笑っていた。出来上がった茹でたポテトとフライドポテトは大変美味しく、次々とお箸が伸びる様子に、ケビンの“他の人の分も考えなさい!”と声上がるほどで、大家族が食卓を囲んでいるようだった。その後、津波後初めての大きなイベントである夏祭りにも運よく参加でき、学生達も大変楽しんだようだった。地元の人に話し

かけられたり警察官と仲良くなったりしながら、屋台でたこ焼きを食べたりお土産を買ったりした。阿部さんご夫婦には、昨年と同様駅までの送迎から全てお世話になり、台所まで開放していただいて大変感謝している。

フェアウェルパーティーでは、恒例の各家族によるパフォーマンスを楽しんだ。今年は歌が多かったが、学生も知っている歌を選び英語と日本語で歌ったり、練習をする中で様々なコミュニケーションがあっただろうと思わされるパフォーマンスが多々見られた。また皆さんの手作り料理を頂き、学生達は京都で手に入れた浴衣を着て、華やかな会だったと思う。

最終日の出発の際は、バスの停留所が歩道にあったためゆっくりとお別れできなかったのが残念だった。感想文も即席の失礼なものになってしまい反省している。仙台滞在は旅の疲れから回復できる貴重な時間であったため、私の気も緩んでいたのではないかと思う。仙台滞在を入れていただき、また準備計画等をお任せできたお陰で、仙台以外のプログラム準備に専念出来、私自身バテずにプログラムを乗り切ることが出来た。

帰国の際、一行はトロント着が3時間遅れたために乗り継ぎの飛行機に乗れないなどあったが、無事家まで辿り着いたようだ。大きな病気や怪我もなく、また事件事故に巻き込まれることもなくプログラムが無事終了できたことが、コーディネーターとしては何より嬉しい。

また、ホストファミリー報告会の様子から、学生達と大きなトラブルや失礼がなかったと聞き、少しほっとした。

“日本の芸術と文化”を2度終えてみて、今回は少し自分自身を客観視することがきたように思う。自分がどのような経験をしているのか、去年はただただ夢中で考える余裕もなかったが、今回のプログラムの計画・実行を通して私自身が地に足が着いた“国際交流”をしていることを再確認した。計画時は、日本の何を見せたいのか何を考えてもらいたいのか、訪れる都市から日々の詳細な内容にまでこだわり、少ない予算の中で多くの経験を詰め込めるか考えた。だが実行する中で、私が好きなものや価値を置くものに対して、学生に“してほしい反応”を無意識に持っている自分に気がついた。また、日本人固有の“空気を読む力”は彼らにはないことに改めて気づき、ボランティアして下さる方々がどのような思いでして下さっているのか等、日本人相手では説明が要らないことも、一つ一つ言葉にする必要性に気づいた。学生達(アメリカ人)と日本人を繋ぐ役割がどれほど大変か、そしてしばしばその役割が自分のキャパを超えていることも痛感した。いずれも留学時代にも感じ学んでいたことではあったが、責任の大きさが違っていただけからか、より深く考え学ぶことができたように思う。

最後になりましたが、CCEの通常事業である交換ホームステイプログラムとは異なり、受け入れのみであるということ、また大きな子ども(大学生)であったということ、二つの大きな違いを抱えながらも、学生達を快く受け入れ、仙台滞在の5泊6日が最高のものとなるように全力を尽くして下さったCCE会長をはじめ、メンバーの皆様とホストファミリーの皆様に心から御礼申し上げます。

*南三陸町の阿部さんご夫妻は、17年程前から芳賀会長のご主人を通して知り合いとなり、りんご、野菜などを長年にわたり送って頂くなど、CCE国際交流事業を理解し支援して下さいます。

南三陸町阿部さん宅にて
じゃがいも料理を食べながら和んだひと時



*ニューヨーク州立大学の夏季研修授業“日本の芸術と文化”は、東京、広島、京都、宮城(仙台・南三陸町)の計4都市を24日間で周る。学生は各々の研究テーマを掘り下げながら個々の視点で日本について感じ、考えることを目的としており、個人旅行では難しい、広い意味での日本文化・芸術を日本人を通して体験できるように組み立てられている。本授業は6単位分相当であり、学生達はプログラム中の2回のプレゼンテーションに加え、帰国後にジャーナル(日記)とファイナルペーパー(最終論文)を提出し、授業態度とそれらの点数の加算で成績が付けられる

<仙台ホームステイ日程>

<p>7月23日(水)</p>	<p>18:10 来仙(高速バスにて) 19:30 夕食 21:00 ホストファミリーとマッチング(仙台市泉区桂)</p>
<p>7月 24日(木)</p>	<p>10:10 文化交流会(仙台市桂市民センター) ・おりがみワークショップ 講師/オリガミ・タロー氏 フリータイム 18:30 ウェルカムパーティ・文化交流会(イズミティ21・展示室) ・ウェルカムセレモニー ・琴演奏、琴体験ワークショップ 芳賀邦子さんのグループ ・ニューヨーク州立大学学生による自己紹介 ・ケビン教授によるムーブメントワークショップ ・日本の子ども達による文化紹介「よさこいソーラン」 ・ディナー</p>
<p>7月 25日(金)</p>	<p>被災地南三陸町訪問 被災地見学・さんさん商店街見学・資料館見学 (さんさん館白)</p>
<p>7月 26日(土)</p>	<p>農業体験(じゃがいも掘り)・収穫したじゃがいもでフライドポテト作り 午後仙台へ</p>
<p>7月 27日(日)</p>	<p>フリータイム 17:30 フェアウエルパーティ ホストファミリーとパフォーマンス 浴衣体験 みんなで踊ろう「よさこいソーラン」 (日本とアメリカの子ども達学生、ホストファミリー 他)</p>
<p>7月 28日(月)</p>	<p>フリータイム 13:50 東京へ(高速バス)</p>

地球の子ども通信(CCE) Children's Communication on Earth

〒981-3213 仙台市泉区南中山1丁目24-5 Tel.Fax : 022-376-5382

URL : <http://www.cce-sendai.jp/>